

# どうしてできないんだろう

## 品川区立西大井保育園(東京都品川区)

【5歳児】

<楽しみながら、自ら体を動かして遊ぶ> (年齢別の姿)

コロコロ・はいはい・

たっちの **0歳児**

保育者とのスキンシップなど、心地良い体験を通じて、寝返りやはいはいなどの発達を促しています。

トコトコ歩いて・ブーラン  
ブーラン **1歳児**

歩けるようになり、世界が広がると、つかまる所があれば、どこでもぶら下がってしまうくらい腕の力もつくので、低い段差の登り降りなども、取り入れます。

走るよ・登るよ・ピョンピョン  
**2歳児**

「クマさんになってみましょう」などの声かけや保育者の真似をして、楽しく体を動かします。はしご登りやリズム遊びで、楽しさを広げて行きます。

自分でやりたい何でもやりたい **3歳児**

足も手も自由に動かせ、「自分でできる」嬉しさでいっぱいです。やりたい気持ちを大事にし、上手にできたことをみんなで喜び合います。

やってみようかな・できるかな **4歳児**

友だちと一緒に遊ぶことが、とっても楽しいので、しり込みしていた子も、刺激を受けてやってみようとします。ルールのある遊びを取り入れます。

チャレンジすると

カッコイイ!? **5歳児**


できないとカッコわるいなあ〜という気持ちと、カッコいいに憧れる気持ちが揺れ動く頃です。勇気を出して挑戦したら、とてもいい気分！を味わえる体験をプラス。

鉄棒・縄跳び・跳び箱大好き **小学校就学前期**

「もっと、やりたい」「もっと、上手になりたい」と思うようになります。できたという自信がいろいろなことへの積極性につながるよう働きかけ、小学校へのステップにつなげます。



背景 上記のような運動遊びの経験を積み重ねてきた5歳児なので、様々な運動遊びに挑戦している。子どもたちはそれを「忍者の修行」と言い、繰り返し楽しんでいる。できるようになった術が増えていることが自信につながり、「次は に挑戦しよう！」と頑張っている。その中でも、水車の術(側転)はまだできる子どもも少なく、憧れの術である。

子ども	保育者
「あーあ、できないな」「どうしてできないのかしら」「できないのは身体が(体重が)重いからだよ」	「そうかなあ・・・」と言って、保育者が側転をやって見せる。
「わーっ、先生すごーい」「でも、足がまだ曲がっているね」	「先生はみんなより体重は重たいけど、側転ができますね。どうしてかしら」
「大人だから」「大きいから」「力があるから」など、自分と保育者との違いを次々にあげていく。	「どんな修行をしたらいいかしら」
「もっと修行を頑張ろう」 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">おおきなくま</span>	「腕の力が付くためには、どのような修行がいいかしら」
「腕の力をつけるんだよ」(逆上がりでの修行の経験から、腕の力が必要だろうと考えている)	「さあ、どうでしたか」
「“おおきなくま”がいいよ」「“片足くま”もいいんじゃない」 “おおきなくま”と“片足くま”をそれぞれやってみる。	「では、“片足くま”はどうでしたか」
「“おおきなくま”は簡単だったよ」「(息が)ハーハーする」	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">片足くま</span>
「足がいたい」「腕がいたい」「(心臓が)ドキドキする」「はやく(急いで)やるよりも、ゆっくりやったほうが力がつきそう」(ふたつの修行を同時に行い比べることで、感覚や身体の変化や力のかかり方などに気付いている。	

考察 子どもたちが今までしてきた経験をもとに、「どうすればできるようになるのか」ということを自分たちで考えている。その答えの出し方も、具体的に「 をしてみよう」と導き出している。また、2つの「術」を比べて、身体の様々なところが変化していることに気付くことができた。力がかかると痛くなったり、身体を動かすと息が切れたり、息が切れると心臓の鼓動も早くなったりといったことを実感し、表現できるようになった。ただ漠然と、「足が痛い」「疲れた」だけでなく、具体的に「(心臓が)ドキドキする」と表現したことは、大きな成長だと思われる。

そういった身体の変化に気付くことで、自分の身体の働きを知り、大切にしようという気持ちが育ってきていると考えられる。

“おおきなくま” “片足くま”の詳細はこちらをクリックしてください。

こうして生活する子どもたちのその後の姿を、実践事例集 vol. 6 1章 「プールではできたのに」(P 8 ~ 9)でご紹介しています。

### みどころ

“水車の術”という難しい目的に挑戦したい子どもたちの様子から、目的意識をもって意欲的に取り組むという5歳児らしい育ちが見えてきます。

更に、「どうしたらできるようになるだろう?」と、今までの経験を振り返り、具体的な目当てや見通しをもって挑戦する姿から「子どもたちの主体的な生活の中で、活動が積み重ねられてきた」ことが分かります。体験を通して「どうしたらよいか」見通しや予想をしたり、動きと関連する体の感覚や変化を「どのようになったか」表現したりしている姿からも、科学する心が育まれていることが期待できます。